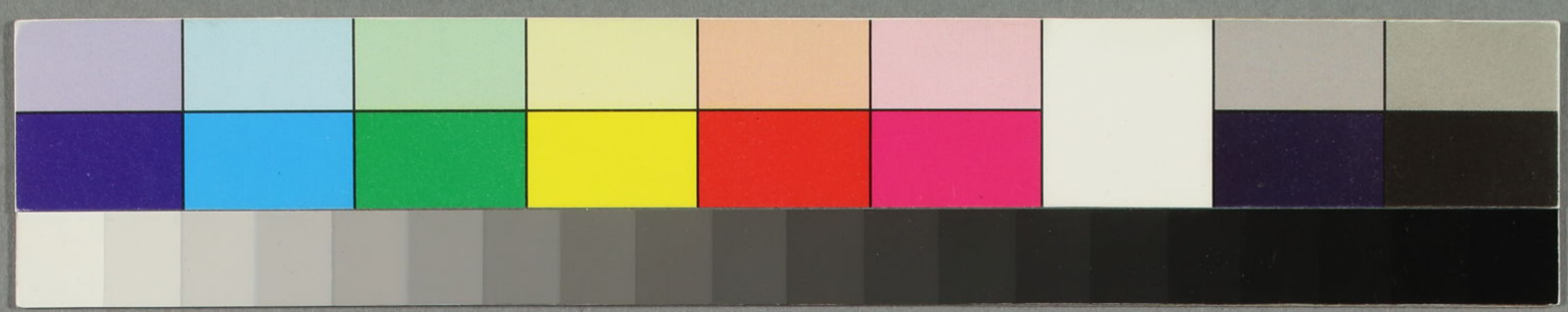
役者評判記

子13
3849
69



チ13
3849
69
チ13
236
123

チ 13
門 巻

役者大極九

目錄

藝品定

かうもくうきよ
座附のはつけいさよ
みなみ紋さめ
なみみ亂いけみ
きつさ實
よさの邪

冠字壷頸巾

● 役人智名の次第

一 ちんくりの　市川市紅
実ハ昆布門大

一 仙茶の大番内　尾上吉磯
後ハ恵比須三郎

一 石川文吉方　庁岡我竜
後ハ布袋智為

一 ちん志ゝう女　芳沢巴江
お名古屋狐矢

一 古屋一味糸　助高屋高助
実ハ寺子屋老人

一 掩糸源七　坂東彦三郎
後ハ大星矢

一 坂おろし　瀬川路考
後ハ猿寒

千姫並乗大叶

京大坂名古屋惣芝居
大坂中の芝居
名代揃屋町之図

大坂小の新地芝居
名代揃屋町之図

● 見立東海道五十三次

大上上吉

▲ 熱塞三蔵　庁岡仁左衛門　京都
小姓ながら真の忠義　後ハ五郎

真上上吉

尾上雛三郎　京山川
後ハ出てもの云ぬ　達磨

至上吉

坂東善三郎　大坂中の芝居
お家の為ハ命も捨　後ハ弁慶

▲ 三役ともに　京山川
上上吉　実ハ忠義　大坂小

上上吉　仙役とさせても　中村歌右衛門　京大阪小

上上吉　四出勤の先頭の　濱尾四郎　大阪中京先

上上吉　けさくらいかの師匠と　市川市蔵　京大阪小

上上吉　作切の引抜の　嵐猪三郎　京大阪小

上上吉　男対女の　尾上菊七　京大阪小

上上吉　幸花粧の　中山富松　京小

上上　手だれかたいやつ　中山彦七　京小

上上　役どうしようていある　中山文七　京大阪小

上上　とうくぶつでそうそが　小川市三郎　京大阪小

上　ろくせの男の　嵐小六郎　京大阪小

上　京のぶつの　片岡燕三郎　京小

一上　嵐小治郎　小一上　嵐菊十郎　京大阪小

立役表曲後見
上上吉　嵐門十郎　吉一上　三枡京蔵　小

立役表曲
上上吉　くろの　山嵐三五郎　京大阪中

▲実敵討の　濱尾五右衛門　京大阪中

上上吉　二月やうく　中山新九郎　京大阪中

上上吉　せうふの　濱尾團次郎　京大阪中

上上吉

上上十五　ゆれるやうに見えていけぬ　淺尾友義　京小例 大阪小

上上十四　奥山のやうに四方もあうくやる　市川友義　京小北

上上　風の吹ぬもちろんぬ大ふう　大谷門義　京小北

上上十三　大坂ようの為ぞ在くの　夷講　うりあと　京小北

上上　宝あてゝみるとせゝ　中村竜義　京小川 大坂北 こびり

上上　夫にうり待つまつてゐ　相撲谷松三郎　京小例 大坂北 ぶつかり

上上　ここがあつてうつてゐ　栄侍義義　京小例 大坂小

上上　牛の子ぶちのやうの　嵐團八　京小例 大坂中北 ぶち 追義

上　ようこゝのいはんとうりて　嵐龍太ろう　京小例 大坂小

上　所岡岡左ろう　京小北

上　ゝ世作文ぶやうく　剣玄掛

上　故役人のやうでも此ぬへつゞれ　荻川八九郎　京小例 大坂中北

上上　二枠場帯ゆ　一上　淺尾團十郎ゆ　一上　淺尾團十郎ゆ　一上　淺尾團十郎ゆ

上上　二枠場帯ゆ　一上　中村團次郎ゆ　一上　中村團次郎ゆ　一上　中村團次郎ゆ

上上　中山文七帯ゆ　一上　中村翫雀義ゆ　一上　中村翫雀義ゆ　一上　中村翫雀義ゆ

上上　中山文七帯ゆ　一上　嵐万義ゆ　一上　嵐万義ゆ　一上　嵐万義ゆ

上上　取系後ゝゆ　一上　中村翫雀帯ゆ　一上　中村翫雀帯ゆ　一上　中村翫雀帯ゆ

上上　中山文七帯ゆ　一上　淺尾友三郎ゆ　一上　淺尾友三郎ゆ　一上　淺尾友三郎ゆ

上上　取系後ゝゆ　一上　実村竜義ゆ　一上　実村竜義ゆ　一上　実村竜義ゆ

実取考据 上上十四

中山文七帯　京都例 大坂中北

おうまつ

▲取次助三郎　京都例 大坂中北

三保木喜兵ろう　京都例 大坂中北 いなか

上上　兎と角人世てもうまく後ろの

今村七三郎　京都例 大坂北 脇役

上上　取次様ごさ村ろのの

沢之枝三郎　京都例 大坂中北

上上　新宿之人にてもあらしの　片岡松六　京小松うけもき

上　みてもゐたやくそ　浅尾恵蔵　京中村

上上　主君の仕事をおそくし　沢村国之助　京大谷広次

上上　▲兜車形之紋　沢村源之助　京大谷広次

上上吉　おくにハ捕人の役もの　中山平之助　京大谷広次

上上吉　▲若女形之紋　荻川友吉　京大谷広次

上上吉　兜をあくと一統之仕人ども　中山よしを　大坂小佐川

上上吉　女の姿にこころうつるの　村瀬子　京小松

上上吉　ゆくび　出番をまちてもおそくの世之人なり　中村大吉　京大谷広次

上上吉　ゆくび　志のづの仲人ものくらいの女房　中村芝六　京大谷広次

上上吉　ゆくび　初老の役ゆへ今ふの一　市川団之助　京小松

上上吉　ゆくび　琴の音をしる人の役ゆへ　中村の一　京大谷広次

上上　万次の乳母ゆへ　片岡市之丞　京中村

上上　此者ゆへ　嵐村八蔵　京小松

上上　南之方にて女形の　荻川清五郎　京大谷広次

上止　お姫さまのやうなもの　芳沢已之助　京大谷広次

上上　大工之棟梁一の役ゆへ　中村源六　京小松

上上吉
山下源左衛門 永小姓 大坂
上上
沢村宗之助 永若女形 大坂
上上
三枡小源太 永若女形 大坂
上上
三枡大全之助 永小姓 大坂
上上
山下長雲 永若女形 大坂
上上
嵐雛助 永小姓 大坂
上上
浅尾彦次郎 永若女形 大坂
上上
沢村長助 永若女形 大坂
上上
中村深助 永若女形 大坂

上上
山下源左衛門 永若女形 大坂
上上
沢村宗之助 永若女形 大坂
上上
三枡小源太 永若女形 大坂
上上
山下長雲 永若女形 大坂
上上
三枡大全之助 永小姓 大坂
上上
嵐雛助 永小姓 大坂
上上
浅尾彦次郎 永若女形 大坂
上上
沢村長助 永若女形 大坂
上上
中村深助 永若女形 大坂

上上吉
若女形美曲 立役ぶり
大上上吉

▲若女形美曲 立役ぶり

上上
三枡綾之助 永小姓 大坂
上上
坂川万代 永小姓 大坂
上上
中村源之助 永若女形 大坂
上上
河久吉 永小姓 大坂

上上吉　片岡我童　京小伝
上上　かんのこそでのしぼりかた　あへ
　　嵐　三吉　京もみぢ葉の誠
　　本望のおのこそでのしぼりかた
上　▲子役こそ並
　　嵐芳三郎　京小伝
　　どこそでのあやめ
上　　中山文十郎　京小伝　京もみぢ葉の誠
　　一條大蔵と忍ひ妻　ちら
▲京小伝之部
一桐座谷蔵部　一山下亀蔵
一沢村長雲　一市川市之部
一深井鶏吉　一葭川久之部
一市川芳之部　一赫山吉雲
一中村の富　一小佐川小吉
一浅尾新之介　一中山文之部
一嵐橘之介　一姉川総吉
一片岡左吉　一市川万太部

▲京小伝之部　西之ごとく
一嵐竜蔵部　一葭川清吉
一葭川芳吉　一嵐橘之部
一浅尾万之部　一浅尾為之部
一嵐橘之部　一市川九蔵部
一中村源蔵部　一嵐吉之部
一市川市漁　一中村鶴之部
一嵐吉吉

極上上吉　▲西ノ巻役割
市川團蔵　京小伝

▲雑の方こゝに収

○小例こゝに

一番 中村長次 一張 弦木幕屋
一冂 中村富吉 一冂 弦木数吉
一冂 坂田八郎 一冂 弦木源作
一冂 杉谷為吉 一冂 栗源作
一冂 中村忠吉 一冂 栗源作
一冂 鳥新七 一冂 通路忠作
一冂 鳥常八 一冂 栗作重作
一冂 栗源統弟 一冂 大船門元
一冂 栗源松作 一冂 弦木吉作
一冂 上面安平 一面 市川少作
一冂 和田竹八 一冂 和田七左
一冂 小川仙吉 一冂 越口源分
一冂 中村治吉 一冂 鳥文平
一冂 猟山小四 一冂 稲尾音作
一冂 和多井右 一冂 西村安右
一冂 竹本留吉 一冂 竹本安作
一冂 栗源作次 一冂 入江栄蔵

▲雑の方こゝに収

○小例こゝに

一番 中村長次 一張 弦木幕屋
一冂 中村富吉 一冂 弦木数吉
一冂 坂田八郎 一冂 弦木源作
一冂 杉谷為吉 一冂 栗源作
一冂 中村忠吉 一冂 栗源作
一冂 鳥新七 一冂 通路忠作
一冂 鳥常八 一冂 栗作重作
一冂 栗源統弟 一冂 大船門元
一冂 栗源松作 一冂 弦木吉作
一冂 上面安平 一冂

○ つゞしやと

けの世ん清水（あくせんしみづ）

はまだ八百八寺の内の岡山法花寺村七寺の内の寺の名なり。清水の名ハ大坂七名水の内。

元禄十一戊寅年洛陽三条通寺町の書林 [illegible] 板元 [illegible] 大全部五冊

[illegible] 大坂名所 [illegible]

[illegible] 大全部三冊

[illegible] 大全部二冊

[illegible] 大全部三冊

[illegible] 大全部二冊

[illegible] 大全部三冊

[illegible] 大全部二冊

上
上上 帝の谷御前 中村弥五郎 以下こゝに殺
上上 ▲以下こゝに殺
上上士 中村弥五郎帝 乃物
上上吉 ▲若女形こゝに殺
上上吉 山下八百三 汲村京三帝 乃功 やゝし
上上吉 義川亀雲 泉川清こゝに助 やゝし
上上吉 芳沢小紫 山下文右衛門 乃物 やゝし
上上吉 嵐 乃物
上上吉 中村喜多川 乃物 やゝし
上上吉 水木辰之助 泉川源左衛門 やゝし
上上吉 ▲若女形こゝに殺
上上吉 嵐雀こゝに殺 石村石之帝 やゝし
上上 ▲石投こゝに殺 江口万吉帝 やゝし
真上吉 ▲悪人こゝに殺 嵐 亀蔵 乃物
三役こゝに殺 ▲石投こゝに殺 嵐 亀蔵 乃物
上上吉 ▲悪人こゝに殺 芳沢小紫 乃物 やゝし
上上吉 ▲悪人

上上士
上上吉
上上吉
上上
上上
上 坂東十祀 参

▲実盛之弟 大西
松浦寺之弟 荒木
宇村八右衛 荒木
苅相原之弟 大西
宇村神兵 荒木
庄岡林兵 帝の剣
松浦宮兵 荒木
上 坂東十祀 参

上上吉
上上吉

▲実検之弟 大西
松浦清兵 大西
谷村竜兵 荒木

上上吉
上上吉
上上吉
上上吉
上上
上上
上上
上上
上上吉
上上吉
上上吉

竹田赤吉　社ナ
竹田小金　社ナ
市川鶴蔵　いう　莫
嵐冠三郎　莫
嵐宗蔵　莫
大谷友蔵　いう
大谷友蔵　いう

▲実悪ニ扮シ

▲敵役ニ扮シ

大谷友次郎　いう
中村訥升　いう　莫
市川多見蔵　莫
松本又蔵　莫
三桝傳八　莫
市川熊助　社ナ
坂田藤吉　社ナ
竹田熊吉　社ナ
浅尾安蔵　社ナ
吾妻福助　莫
竹田大助　莫
中山吉衛　いう

竹田幸吉　社ナ
竹田小金　社ナ
市川鶴蔵　いう　莫
嵐冠三郎　莫
嵐宗蔵　莫
大谷友蔵　いう

○に淡

▲越寒月

松大上上吉 ㊁ 庄岡紅葉 京住

梅 眞上三吉 ㊁ 尾上龍三郎 京山科大根川

竹 上上吉 ㊁ 坂東喜三郎 京堀江

京評 あでやかな梅に松竹の取合せ、大当りの狂言、おまけに色気たっぷりの所作事、のべつくまなしの大入り、そもそもこの芝居の繁昌は、ひとえに京屋のおかげ、とそう申しても、決して過言ではございません、

京評 ほんに京屋さんは、ええ役者を揃えやはりましたなあ、

▲ 立役上上吉　三枡　山風吉三郎　市川

ゆんべこちらの漫客やさんへ　所作　善悪

ひさしぶりでもの待ちどおや　所作　そうくるのを

来てほれる辺の深谷の大寺参りで　所作　逢引

ありしまゝ事の深谷の大寺参りで　所作　逢引

なんでも深谷のやうな所へ来て　所作　去秋国の対決

廓通ひで手拭ばかり　所作　去秋国の対決

やうなものでござります　所作　去秋国の対決

上上吉 回 津村敦右衛門 京吉岡の元大坂中の丸

京役 今の出のこと あやまりなく

京役 二段目 茶の湯 所作事

京役 吉原の仕組とこの三合手妻茶番をうつし

なにおもしろく 京役 三段目 吉原の揚屋の場

名代の振袖新造 京役 さと 惣嫁 二段目 茶の湯所作事

京役 二段目 茶の湯所作事

初ものをかくして 京役 三段目 吉原の揚屋の場

おもてへ 京役 さと 惣嫁 二段目 茶の湯所作事

下もあつげの 京役 三段目 吉原の揚屋の場

上上吉 回 津村敦右衛門 京吉岡の元大坂中の丸

京役 今の出のこと あやまりなく

京役 吉原の仕組とこの三合手妻茶番をうつし

なにおもしろく 京役 三段目 吉原の揚屋の場

名代の振袖新造 京役 さと 惣嫁 二段目 茶の湯所作事

京役 二段目 茶の湯所作事

初ものをかくして 京役 三段目 吉原の揚屋の場

おもてへ 京役 さと 惣嫁 二段目 茶の湯所作事

下もあつげの 京役 三段目 吉原の揚屋の場

ののしる風じゃぞ 京役 三段目 吉原の揚屋の場

うちへたれも客を入出ぬ 京役 さと 惣嫁 二段目 茶の湯所作事

うく 名代 時を経ず海上の春をも告げられて

名代の振袖新造 京役 さと 惣嫁 二段目 茶の湯所作事

とうくしの数かいてあるね 京役 さと 惣嫁 二段目 茶の湯所作事

吉原の揚屋の場

太夫の道中 所作事 二段目 茶の湯所作事

つうすりゃ 京役 吉原の揚屋の場

約束をする 京役 三段目 吉原の揚屋の場

ぜひ秋の年 京役 さと 惣嫁 二段目 茶の湯所作事

茶の湯所作事

上上上上

上上上　（朝来）　尾上新七　京小劇

上上十　中山会所　京小劇

上上

京都 中山新七

所司代 京都 中山久吉 京小柳

京都 中山小三郎 京小柳

上

京都 小川表之助 京小柳

上

京都 片岡熊吉郎 京小柳

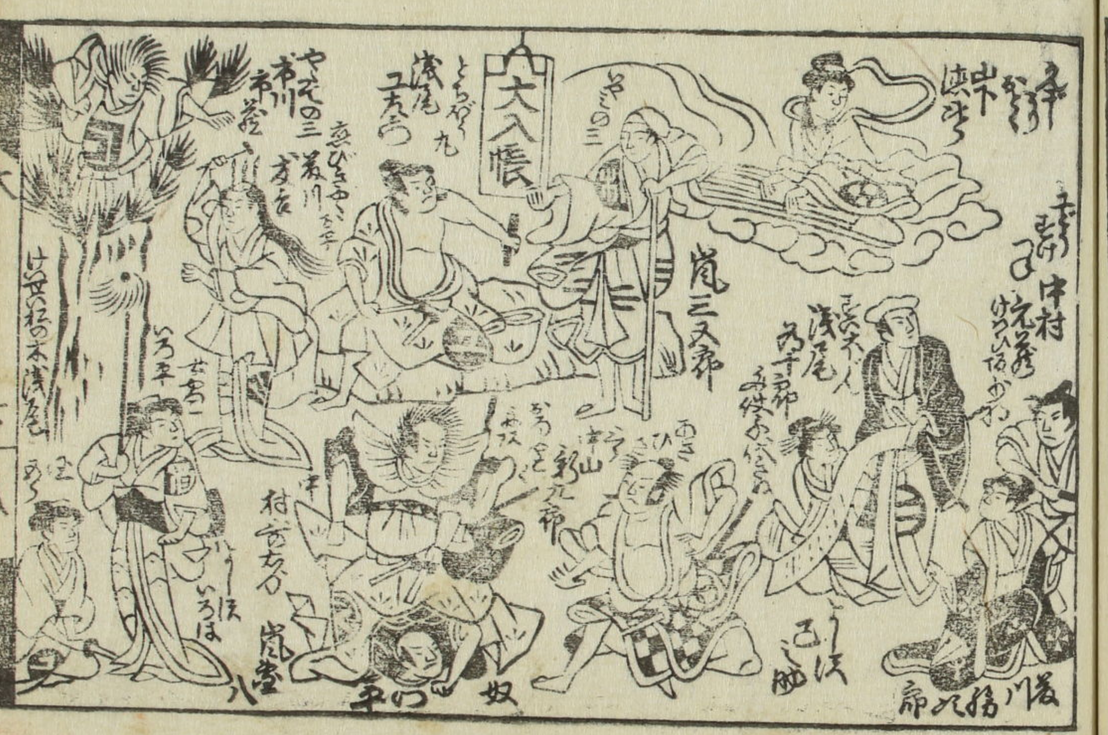
関

関三十郎

嵐三右衛門

碁太平記白石噺
大序より詰腹まで
幕山下徳蔵帝

彩色世話言 大社夫婦貞細
三神壹宮



▲実母を慕ふ孝

上上吉 ㊂ 濱尾吉兵衛 京都 太秦生れ

あつさう太夫其の体せて登り下りとやまと
去秋の頃の社出勤仕うと巳に 京都 三條通
ぜんぜの出来、板付かぬもの、彼れ
今あれ程に迄立ち勝うなへ方の
あぢおさ 大阪 道頓堀 芝居の
ぢどうしてもがまんこと出ぬ神ひとやをゆび熱
ねのうへ峰ばかりのくうそのでおくこと 二段目
ゆき方がわからぬのけんとまて大夫の勤
ぢどうしてもがまんこと出ぬ 大阪 芝居の
ばかりのこちがう此おがくるまわれ 京都 祇園
都 花いろのおもかげ 二段目
とはなれ天人ぞろ 役者
京都 祇園 中山新次郎

上京 天保の頃、大名屋敷の長屋に、浪人の住まひ
のうらうらと物さびて、夕ぐれ、ひとりの女の、
あでやかなる、赤の腰巻ばかりを、
後ろの出入口の戸に、ぶらさげ、
乾かしてゐるのを、
見かけた、ある浪人者が、
ふと、
その女の、
赤い腰巻に、
ひかれて、
その女と、
懇ろになり、
やがて、
夫婦約束をした、
ところが、
その女は、
ある大名の、
お抱えの、
腰元であつた、
ことが、
後に、
わかつた、
ので、
その浪人者は、
大いに、
驚いて、
もう、
どうにも、
ならぬ、
ことに、
なつた、
が、
その女は、
浪人者の、
赤い腰巻に、
ひかれた、
ほどの、
ことだから、
なかなか、
浪人者を、
離さない、
ので、
浪人者は、
仕方なく、
その女と、
一緒に、
なつて、
暮らして、
ゐた、
が、
ある日、
その女の、
主人の、
大名から、
その女に、
お呼び、
出しが、
あつた、
ので、
その女は、
浪人者に、
暫く、
待つて、
ゐて、
呉れ、
と、
いつて、
出かけた、
が、
その女は、
それ、
なり、
帰つて、
来ない、
ので、
浪人者は、
仕方なく、
その女の、
主人の、
大名の、
屋敷に、
行つて、
その女を、
呼び、
出して、
貰つた、
が、
その女は、
浪人者の、
顔を、
見ると、
泣いて、
ばかり、
ゐて、
何も、
言はない、
ので、
浪人者は、
仕方なく、
その女を、
連れて、
帰つ

上上
上上
上上

上上士回　津山文武部　来山湖

上上　○　浜村岡之部　来山湖

上上　○　浜村流之部　来山湖

上上　○　三保之浦　来山湖

上上　○　今村七三郎　来山湖

上上　○　和戸政五兵衛　来山湖

▲若女形うつし絵

上上吉 嵐川 友吉 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

信州川中嶋合戦

義経千本桜

上十七回 ㊐ 月 日 紙子 京小川

中村大吉

中村喜三郎

市ノ関ヲ国 京ノ川

[illegible]めるうと称ら号ると流

[illegible]流ノ水ヒ[illegible]

[illegible]姫ヲ奏ル[illegible]

[illegible]ノ[illegible]ヲ[illegible]

[illegible]ヲ[illegible]

[illegible]

[illegible]

の仕同て死やうかゞ

上上

[illegible]

[illegible]

[illegible]

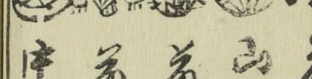
上上 山下源之助 京都

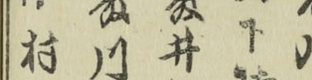
上上 ㊀ 浜村京三郎 京四条

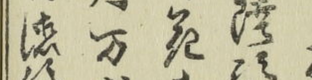
上上 ㊀ 浜村京三郎 京四条

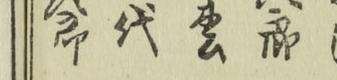
上上 山下源之助 京都

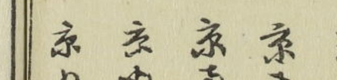
上上上上上

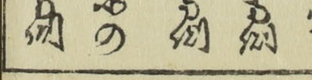


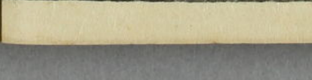


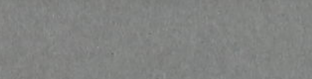


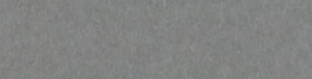


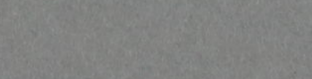


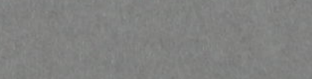


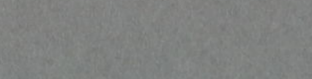


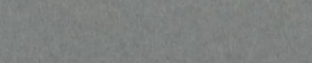












上上上上上

▲ 市川團藏 ひげ蟹

極上上吉 回 市川團藏 ひげ蟹 軸

▲ 瀬川菊之丞 ひげ蟹

上上吉 ㊀ 片岡仁左衛門 ひげ蟹 軸

上上吉　大谷流次
上上　大谷鬼次
上上　市川團之助
上上吉　山下八百蔵

江戸之巻同断

志づくくの掛声（うけこえ）

相（そで）も出端（でば）乃よし見は

大（おほ）ぜの者（もの）も弥（いよ）〳〵

見てもとうとうの旭（いろ）

おのちよさ

和泉（いづみ）ぬ

物（そう）のひゃう子（し）

櫓（ろ）拍子（びやうし）

さるい町
ふきや町
とびさ町

極上上吉　▲ 魚尽
大上上吉　▲ 寒中の魚

上上吉　▲ 鯉　中村弥三郎
上上吉　▲ 鰡　市村羽左衛門
上上吉　▲ 鯔　河原崎権之助
上上吉　▲ 鯛　中村勘三郎
上上吉　▲ 鰹　市村竹之丞
上上吉　▲ 鰤　中村富十郎
上上吉　▲ 鰒　市川八百蔵
上上吉　▲ 鱸　市川高麗蔵
上上吉　▲ 鰻　坂東三津五郎
上上吉　▲ 鰈　沢村源之助
上上吉　▲ 鰯　中山文七
上上吉　▲ 鱚　市川門之助
上上吉　▲ 鱶　尾上菊之丞
上上吉　▲ 鱧　市村竹之丞
上上吉　▲ 鰕　中村富十郎
上上吉　▲ 鰌　市川門之助
上上吉　▲ 鮫　尾上松助
上上吉　▲ 鮒　中村勘三郎

瀬川路考　中村富十郎
勘高屋高助　市村竹之丞

座頭ども
又ゝ生世ごと
浄るの
趣向を自慢
元よりの
なやうさ
雑な方へ一回り
味よい声で
又ゝ

上上上 鮒（ふな）
上上 鯔（ぼら）
上上 鯛（たい）
上上 鱸（すずき）
上上 鮭（さけ）
上上 鰤（ぶり）
上上 鰈（かれい）
上上 鰹（かつを）
上上 鯉（こい）
上上 鰻（うなぎ）
上上 鯰（なまづ）
上上 鰌（どぜう）
上上 鱸（すずき）
上上 鰤（ぶり）
上上 鰈（かれい）
上上 鰹（かつを）
上上 鯉（こい）
上上 鰻（うなぎ）
上上 鯰（なまづ）
上上 鰌（どぜう）
上上 鱸（すずき）
上上 鰤（ぶり）
上上 鰈（かれい）
上上 鰹（かつを）
上上 鯉（こい）
上上 鰻（うなぎ）
上上 鯰（なまづ）
上上 鰌（どぜう）

王

嵐雛助 市村座

上上吉

（この役悪き心）
嵐雛助 市村座

上上吉

嵐雛助 市村座

上上吉

嵐雛助 市村座

上上吉

上
上 中洲成十第 中村
上 市川猿之助 中
上 市川猿之助 中
上 坂東国三郎 中
上 松本錦升郎 中
上 坂東文蔵 中
上 萩枝初右衛門 中
上 市川寿海 中
上 市川栗昇 市
上 市川万蔵 市
上 坂東彦三郎 市
上 市川寿美蔵 市
上 嵐璃寛 河
上 市川団蔵 市
上 坂東大五郎 河
上 坂東大蔵 河
上 市川猿之助 市
上 坂東三津五郎 市
上 坂東彦三郎 市
上 市川門之助 市
上 市川寿美蔵 市
上 嵐璃寛 河

一上　中村七次郎　市川男寅　中一上　中山岩太郎　市
一上　松本國之助　中村安松　市一上　中村安松　市
一上　小笠川松吉　源一郎　上　中條甫松　市
　　　

▲之社又久久く称

中村社　中村鎮座　坂田時義　坂田諸義

市村社　大若運三　坂東吉義

沼原清光　市川雷義　松本國之助

▲之社雛まつ称

●中村社

一名号　芳村伊予　宮主田勇義

〃　宮主田勇義

〃　尾形吉義

〃　松山理子

〃　宮村常義

〃　宮主田勇次

一名号　ぐるや正作

〃　ぐるや左吉

〃　ぐるや茂吉

●市村社

一名号　宮主田勇義

〃　宮安幸子

〃　宮安幸八

〃　宮主田まさ

〃　宮主田吉太

〃　宮安幸作

〃　宮安幸十

一名号　ぐるや秋吉

〃　ぐるや茂吉

〃　ぐるや活力

〃　ぐるや春子

〃　ぐるや和介

〃　ぐるや春子

〃　ぐるや万吉

〃　菱号勇吉

〃　田中伊左

〃　金川米吉

〃　和田新義

〃　西川保義

一大つ　菱田久吉

〃　金川幸作

〃　坂田秀子

〃　金田三平

〃　佐田清七

〃　佐田清吉

一名号　菱号勇吉

一名分　沼戸幸吉

〃　沼戸幸吉

〃　沼戸幸吉

〃

一口　江戸ます
一口　江戸まきり
一口　江戸真ダラ
一口　江戸鮫八
一口　中川まきり

●汽車待ち

一本ぢ　杉箸正吉
一口　杉箸鉄ち
一口　梅嶋弥吉
一口　阿波土田千吐
一口　杉弥吉
一口　杉弥源兵
一口　杉弥清ち
一口　こゝや熱酒

一口　十寸尺東水
一口　十寸尺京和
一口　十寸尺東川
一口　山彦江良
一口　山彦波暁
一口　山彦弥七
一口　山彦文吉
一口　山彦弥ち
一口　山彦文ち

一口　こゝや今盛
一口　こゝや七ち
一口　こゝや万盛
一口　こゝやちち
一口　こゝやまき

▲駅会係者ども

一寸　西川商店
一口　森弓吉

中村ヲ

京清水五統
杉清水正七
梅田清水八
萬錦千助
田清酒店助
勝仕込助
績盛助

市村ヲ

並木五統
清水正七
高橋壺三次
今村表助

千秋万歳楽

幸於家七
並木植助
並木め一
並木ゟ一
村岡喜左
松井喜三

木村園次
号松平春
木村松六
江岡喜代
泉相八
今泉助
稲葉繁助
福原久助

役者大極丸　江戸の巻

▲江戸三芝居名代風俗三都之姿

○中村勘三郎

亜十一月狂言
せいろけんどんやのやかた
清正誠忠
そうそだち
再来月雪月間夢
中村七三郎
市川おのえ
瀬川菊之丞
岩井半四郎
清正誠忠
市川団十郎
市川八百蔵
坂東三津五郎

○市村羽左衛門

亜十一月狂言
ひのえうまのかね
旧事紀源
旧事紀源

中村座

市川男女蔵

坂東三津五郎

中山文七

大谷友右衛門

市村座

市川団十郎

澤村源之助

中山来助

尾上松助

沢村宗之助

中村芝翫

市川門之助

河原崎座

市川升五郎

中村芝翫

沢村宗之助

中山来助

小佐川常世

上上上
上上上
上上上

又云 あく上方(かみがた)(ばかり)なかなかおもしろうござりまする
浮世(うきよ)ぶろ(ばかり)でござりまする(ゆゑ)(ゆゑ)(ゆゑ)

上上吉 ◎ 萩原雀仙 中村元
上上吉 ◎ 市川男女蔵 中村芝
[双] 今秋よりお名をかへまして
[双] 初舞台よりご贔屓にあづかりまして
大坂 [双] 去る〇大坂にて ◎ 歌 ◎ 歌 ◎ 歌

く嵐氏の二代目の頃迄は
▲先功ある神
上上士 山神
[illegible]後此地に祭りし神にて 此所開墾
の時の功ある神なり
上上 坂本氏の先祖なり 坂本氏
上上 尾上雷助 中村氏
[illegible]後尾上氏の先祖なり
[illegible]上方役者初めて下りし時
[illegible]
▲実直なる神
上上士 大谷友右衛門 中村氏
[illegible]
上方役者初めて下りし時

[illegible]
[illegible]
[illegible]

上上　山村儀左エ門

上上　尾上松助　市村座

上上　尾上松助　市村座

▲敵役之部

上上　嵐冠十郎　市村座

上上　相馬仙次　出雲

[illegible]

上上　嵐

[illegible]

上上　松

上上　[illegible]

[illegible]

上上　相

上上　嵐

[illegible]

上上吉　▲若女形こゝ許

[illegible]

一の三人ハ中本多三代吉の弟子ニて
下ゑ方ニて
ゑ
[illegible]

上上吉 [illegible] 中ノ宮二所 市村
[illegible]

上上吉 [illegible] 雷川 弥之助 市村

[illegible]

上上吉 [illegible] 雷川 弥之助 市村

[illegible]

上上吉 [illegible] 雷川 弥之助 市村

上上吉 中村鹿之助 にの替り

図 なるの初日のきつねの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り

上上吉 山下万代 方村花

図 なるの初日のきつねの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り

上上 小佐川七蔵 はま清花

図 なるの初日のきつねの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り

上上 市川おのは 中村花

図 なるの初日のきつねの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り
なるの所作ごとに大当り

上上 佐川藤三郎 中村花

上上 小佐川松三 はま清花

図 御用状の写しまで参らせ候 [illegible] 辺の
[illegible] 御用状 [illegible]
[illegible] 御用状の写しまで参らせ候 [illegible]
[illegible] 御用状の写しまで参らせ候 [illegible]

功上吉

図 [illegible] 小倉川 [illegible] 世 [illegible]
[illegible] 御用状の写しまで参らせ候 [illegible]
[illegible] 御用状の写しまで参らせ候 [illegible]
[illegible] 御用状の写しまで参らせ候 [illegible]

上上

図 [illegible] 御用状の写しまで参らせ候 [illegible]
[illegible] 御用状の写しまで参らせ候 [illegible]
[illegible] 御用状の写しまで参らせ候 [illegible]

▲ 名の [illegible] 形 [illegible]

上上吉

▲ [illegible] 油

上上吉
上上吉
上上吉

文化二年
寅正月吉日

八文字屋八左衛門梓

飛者自笑

○一すじくおもしろせやとしば

役者用文章指南　山東京傳作　全部弐冊
（流光斎馬琴合巻）

右の書は今洋彩古今の俳優の紋所を図し其外文面のつゞきやう手紙の認様迄委しく出し初心の人に教ゆる為の書也

役者百人一句絵鏡　八文舎自笑著　全部一冊
（流光斎如圭画）

右は今洋の役者の紋を出し其人の句を画き一首の狂文を附しく仕立たる者也

戯場一覧　八文舎自笑述　全部一冊

右は二ヶ津芝居の大概をあらまし記す

金毘羅詣利生記　今村美濃作　全部一冊

後の番外に金毘羅の由来并に祭礼の図等のる事、委くハしくす事記す

…ようのばんぐみ
大坂で 萱草園 …中本 金沢一冊

右の他の国河内後工両郷の地名宿々
そくくまで紀一大坂伏見両所
永常之ヶ津多紀伸出日その外
法方一の乃法大坂より
乃の名所古名おもで
紀一両井うそ四つくさみるおもみる
おもう一ヶ山てえをうう
ちうう四一先う紀生事之外

繪本 系図部 未完の為後日之大全 金沢五冊
繪草紙 同 金沢五冊

俳諧 秋月下 白露著者 金沢三冊

右ハ書俳諧の紀原より諸流義のことを
新古の發句数千章を集む
當三代より市中一ヶ所の事柄を
乃求諸流名句を集よてこと 坂元

○守と手紀一九ヶ…

三ヶ津義界宗匠
二の椀大評判
役者一口噺

其れその義界宗匠
も及延う沙汰中
取名ども細評
逃名ども
より甘入う統…

役者百人一首後編 仇者 自笑
三坏 金沢二冊
戯場 草の種 流義部画
金沢三冊

…事ハ…の編こと…
…ことと名付…
仕立…
居初…
名…
…
…
…
…
…
…
…
…

京流 淡路 浪花 蕭山岸 秋月白嶺著

江戸 雪中庵完来序 俳論 全部二冊

大坂 八千坊駝華序 彩刻出来

大坂 大伴大江麿跋

式書俳諧のあら海を述

上代風 宗祇 宗鑑 守武

古風 貞徳 季吟 雛翁 酢哺 梅盛 松堅

檀林風 宗因 西鶴

江戸風 正風 巌蘭 雪

祇園風 伊丹風 鬼貫

伊勢風 乙由 米濃風 支考

当時蕉風 淡々

古流式くのりとらを記一俳諧

淡々教多出西鶴新古変自

教千秀逸集む者扶桑

[illegible]

板元 八文字屋八右衛門